



東日本大震災以後の石巻しみん市場

## 石巻しみん市場の被災

石巻しみん市場は、東日本大震災が発生した今年の 3 月 11 日まで、新鮮な魚や魚介類をリーズナブルな価格で扱う水産物中心の小売販売所でした。

いくつかの鮮魚店が店内にあり、上質なマグロの刺身を安く提供してくれるお店や、釜揚げのシャコを試食させてくれるお店などもあり、地元の方々からの評判がとてもよく、丸岡ゼミで行ったアンケート調査の結果、親しまれていることがわかりました。

しみん市場では、新鮮さを魅力とし産地直送で商品を扱い、産直市場として土日に多くのお客で賑わうお店でした。海のものだけでなく、畑で採れた物も売っていました。石巻地域の多彩な朝採野菜と水揚げしたばかりの海産物が揃うので、地元の業務店の仕入れや、新鮮さを求める買い物客でにぎわっていました。産地直送なので鮮度が良く好評でした。牡鹿半島が牡蠣の養殖所となっているため一年間を通して販売できる、名産物の牡蠣がおすすめでした。

さらに、しみん市場では買い物の他に隣ではレストラン「いさばや」が併設されており、食事もできる場所でした。私たち丸岡ゼミは東日本大震災が起こる以前にしみん市場でお客様を対象としたアンケート調査を行い、しみん市場に観光客は少なく、地元のお客さんが中心

で、日常的な買い物目的が多いことがわかりました。この調査の結果しみん市場のことを深く知り、立地への問題意識を高めることが出来ました。

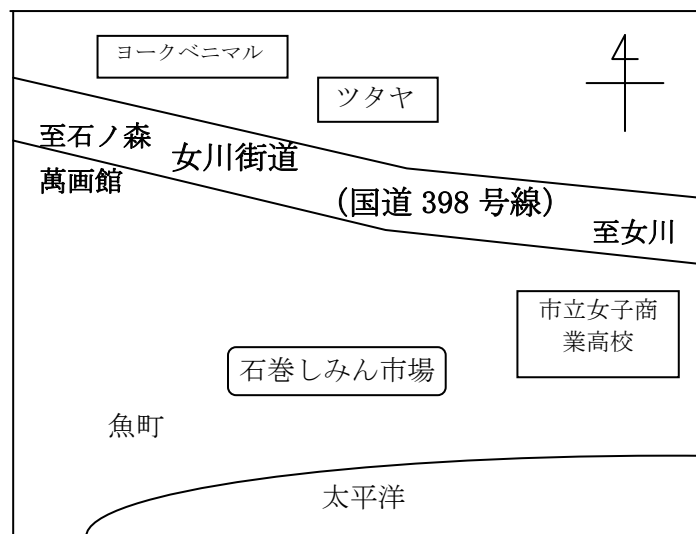
しかし、3 月 11 日に東日本大震災が起きました。海からしみん市場までの距離は 300m しかないため津波による被害で、しみん市場は甚大な被害を受けました。従業員は避難したため人的被害はなかったものの、建物内部はそのほとんどが津波に流されてしまいました。10 月 5 日現在しみん市場は再開のメドは立っていません。もともと経営もきびしい状態にあったため、再開には向かない方向が強いとのことでした。

それでも、もし作り直すのであれば集客に有利な立地を選んでいただきたいというのが、昨年調査した私たちの意見です。石巻市民に愛され、私たち自身も調査を行いゆかりのあるしみん市場なので、絶望的な状況ではありますが、復興・復旧に向けて、頑張ってください。

(崎山信之介、高橋誠)



東日本大震災以前の石巻しみん市場



石巻市魚町の石巻しみん市場周辺地図

写真は下記サイトから許可を得て転載  
<http://shinyousha.com/shinsai/2011/03/nagahama.html>

# 軽部さんのボランティアライフ

私たちは9月下旬、石巻専修大学のグラウンドのテントで寝泊まりしている方のボランティアライフについて興味を持ち、お一人に話しかけてみました。

神奈川県在住の軽部さんは見たところ30代の男性です。以前は設計業に従事していたそうですが、4月末から石巻に来たそうです。震災が発生し被災地に少しでも協力したい、ボランティア活動をしたいと強く思い、仕事を辞めて石巻に来られたそうです。これを聞いて私たちはとても熱意のある方だな、と思いました。

まず、どのような活動をしているか聞いてみました。作業は基本的にボランティアセンターから依頼を受けて行い、その内容は個人宅の床下や庭の片づけが大半であり、泥のかきだしは半年間行っていたそうです。場合によっては、業者が行うような浴槽の交換などもしているとのことでした。

次に、大学には入浴施設がなく毎晩どう入浴しているかが気になったため、お風呂事情について聞いてみました。こちらに着いたばかりの頃はまだ気温も高くなかったので汗をかくこともあまりなく、お風呂は自衛隊の提供や介護施設、三陸自動車道河北IC付近にある道の駅「上品の郷」には温泉施設もあるためお風呂の使用についてはそこまで困ることはなかった、とのことでした。

食事についても聞いてみました。食事は個人で作ったり、集まった人達で作ったりしていただいているそうです。個人で来ている人達も活動を通じて仲がよくなり一緒に行動している方もいるそうです。

最後に、ボランティアの現状と軽部さんのボランティア観を聞いてみました。「現在、ボランティアは減ってきているもののボランティアセンターからの依頼は絶えず、手が足りてないので是非学生にも参加してほしい。ボランティアで大切だと思うことはそこに住んでいる人の望んでいることをすること。迷惑をかけてしまうことはボランティアではない。」とのことでした。

今の石巻は軽部さんのような責任感のあるボランティアが来てくれたおかげできれいになったのだと、私たちは思います。今後、復興を終えた石巻にもぜひもう一度来てもらいたいです。

(永田清龍、佐藤良輔、松原明広)



## ボランティアサークルNEXT

石巻専修大学ボランティアサークル「NEXT」は今年7月14日に始動しました。「被災地の復旧復興、被災した方々の心のケアに地元の大学生の力を生かしたい」という思いを共有する25名の学生が、活動に参加しています。

現在の活動内容は配給、炊き出し、現状調査などです。配給の物資や炊き出しの材料などは、NPO 法人フェアトレード東北とセカンドハーベストジャパンに提供してもらい、一緒に活動させてもらっています。

配給では津波の被害を大きく受けた石巻市湊を拠点にして行っています。大きなイベントなどに呼ばれた時にも配給や炊き出しはもちろん、他のボランティア団体のお手伝いをすることもあります。

配給活動に参加し始めたころ、被害の大きかった石巻市湊では、近隣に開いている店もなく、車も失った方、生活に困っている高齢者の方がたくさんいました。そのため、ここでの物資配給はとても喜ばれており、多くのボランティアがやりがいを感じていました。

炊き出しは、主に仮設住宅の方々に提供しています。そのメニューはカレー、そば、そうめん、野菜炒め、かき氷など大人から子供まで喜ばれるものを選んでいきます。炊き出しは、心のケアにも役立ちます。そばやカレーが出来るまでの待ち時間に、ボランティアと仮設住宅の方の間、仮設住宅での御近所の方たちとの間で自然にコミュニケーションが図れるのです。

調査では津波の被害を受けた地域に住んでいる住民の生活状況の聞き取りや、精神面のケアを目的としたアンケート調査を行っています。私達もこの調査に加わってわかったのは、高齢者が移動手段に困っていること、家族のことを心配するあまり学校や仕事の間に不安を感じ日常生活に支障をきたしてしまう方が多くいることでした。今後の高齢者巡回や、二次調査での心のケアが重要ではないかと思います。

NEXTはこれから、配給、炊き出し、調査などの対人ボランティア活動をするつもりです。NEXTの目的はあくまでも心のケアです。

(鈴木愛佳、小沼英実)

皆様からのご意見・ご感想をお待ちしております。

E-mail [senshu-maruoka@inter7.jp](mailto:senshu-maruoka@inter7.jp)